遊煩悩林

順正寺報
2022.5

永代経法要

五月八日（日）
午前十一時三十分より
読経（衆僧総供養）
法話

風薫る五月、貴家皆様にはご清祥にて、お過ごしの事と存じます。
さて、今年の「永代読経法要」はコロナウィルスの拡散を防ぐためご参詣を二十五名に制限してお勤めいたします（要予約）
ご参詣の方はお手数ですが事前にご連絡下さいますようお願い申し上げます

「永代経」とは、「私」が子供や孫そして子孫の幸福を願うと同じように「私」に、幸せであって欲しいと願って下さっている仏となられたご先祖に感謝の思いを込めて僧俗共に勤める大切な行事です

常日頃、生活の多忙さにかまけて、ついつい忘れているご先祖のお蔭に気づき、仏恩報謝のひと時を共にすごしましょう。

当山順正寺では永代読経志を左記に定め、順正寺永代読経過去帳に記載し永代供養致しております。ご希望の方は住職までお申し出下さい。

＊特別永代読経（毎月ご命日読経、祥月命日特別読経）
志納金参拾萬円以上

＊永代読経（毎月ご命日読経）
志納金壱拾五萬円

大悲無倦常照我　だいひむけんじょうしょうが

3年ぶりに皆さんをお招きしての「永代経法要」です。順正寺では年に6回法要をお勤めしていますが、この「永代経法要」どう云う訳かコロナ感染のピーク時にかかり2年連続で皆さんをお招きできずに内勤めとしていました。やっと皆さんと一緒にお勤めできます。

さて、表題の言葉はいつも一緒にお勤めいただく「正信偈」の一節です。「正信偈」は親鸞聖人がお釈迦様の教えによって阿弥陀さんの救いに出遭った歓びを漢詩に著わしたものです。

阿弥陀さんの大いなる慈悲（私の身に沿い悲しみを受け止めて優しく包み込む思い）は休むこと、あきらめることなく、常に私を照らしていると讃嘆しています。

永代経の「永代」は、ご先祖や子孫、遠い遠い昔から受け継がれ、また遠い遠い未来まで受け継がれて往くであろう私たちの命やその願いを表わす言葉でもありますが、むしろ、私は「いつでも、どこでも、誰にでも」と受けめています。

この3年の間にコロナ感染、戦争とまさに世界がひっくり返るような出来事が起こり、それに合わせて私たちの生活も変わらずを得ません。変わることは、時に悲しく、恐ろしく、不安になります。

阿弥陀さんの慈悲は私たちがどこにいようと、何をしでかしても、何もできなくても、どんな時でも私を照らし護って、「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と呼びかけています。

また、この度の法要は久々に婦人会の皆さんにお作り頂く「おとき」も復活予定です。

ご参詣お待ちいたしております。

3年ぶりに「永代経法要」を参詣者ありで勤修できそうです。2年連続で永代経だけは「内勤め」（参詣者無しでの勤修）でしか厳修できなかったので、なんかとても新鮮な、懐かしい、そんな気分です。そんな心地よい気分の春の日。。。いや、ここ3日ほど夏日が続いているので爽やかさも何もなく、きついなぁ～、と、思いつつ過ごしている今日このごろ、ロシアのウクライナへの侵攻はますますひどくなっており、世間ではロシア人はすべて悪い人間ばかりだ風の非常に安直でものを考えられない大人が醸し出す空気が蔓延しだしているようです。安直に差別し、ものを深く考えることなく叩く相手がほしいのでしょうね、自分たちが少しでもいい人ぶりたいがため、出身地やセクシャルや持ち物などで簡単に差別できるカテゴリにいる対象をみつけて。人間の愚かしさと恥ずかしさの最たるところです。

で、ウクライナからの難民受け入れと手厚い保護をこれみよがしにうたい、報道し、日本人はいい人間しかいない、と、酔いしれている。じつに鬱陶しい春です。

日本には、世界各国から難民申請をしてなんとか日本までたどり着いたのに受け入れてもらえず、空港などから直接入管施設に何年も軟禁状態で入れられている人々が多くいます。その人々は、コロナ禍で入管でのクラスター発生を避けるという理由で、住む場所も、金銭も、なんの保証もなく、現在入管施設から追い出されています。そして、働くことも禁止されているので、そうした人々は、なんとかボランティアの方々の支援でようやく生きているという状況です。世界各国、とくに欧米にいい顔を見せたいので、日本国は難民を受け入れます、という宣伝を大々的にしています。だから、みな安心して、日本で暮らしたい、と、日本への難民申請を出しているのです。で、実際きてみたら、受け入れ拒否。それでも、空港等から他国へ行こうとしないから入管へ。そうしたひどい目にあっている人々からすれば、「せめて、受け入れます、なんて、欧米に向けていい顔をしたいだけのウソはやめてほしい。そのウソさえなければ、日本以外に申請できた」ということです。

ウクライナから逃げてきた人々への支援は大事です。しっかり続けていただきたいものです。と、同時に、いままで放ったらかされてきた人々への支援も同様にするべきではないでしょうか。しっかり、自分たちの生活している社会を見直さなければ、そこに、疑問と反省を持たなければ、安心して過ごせる社会なんて作れません。誰かひとりでも涙する人がいる社会は、必ずどこかに問題があり、誰か一人の涙は、その人だけの涙ではなく、実は「わたし自身」をも苦しめる状況によるものであることを言い聞かせていきたいものです。

この、ロシアのウクライナ侵攻、そこから派生している様々な事象を見ていると、実に日本という私たちが作っている社会の闇、危険性を感じずにはおれません。日本は、先の世界大戦時、現状のロシアがしていること以上の非道をしています。そうした反省は全く戦後されることなく、やられたことだけをあげつらい、被害者意識だけの国民性が出来上がっています。反省ができない、慚愧（ざんき）できない社会性にどっぷり浸かった我々に、決して安心はありません。いま、しっかりと足元を見なければならないときだと思うのです。

無慚愧は名づけて人とせず。名づけて畜生とす。 親鸞

副住職

＊この寺報の原稿書きが毎回締め切り直前まで出来ない。今日も同じだが、これから糖尿病の定期検査に行かなくてはならずさらに時間が無い。

最近は検査も二か月に一回ペースなので楽なのだが、医学が進んで二か月間の血糖値の平均値みたいなのが出てしまう。その数値がここ一年程高値安定になってしまい、このままだとまたインスリン注射と言う面倒くさいパターンに戻らなくてはならない。そう云う訳で面倒くさいのは嫌いだから前回の検査以来毎食前には、急に血糖値が上がらないようにサラダとかナッツを食べ食後にはスクワット一〇〇回と言う涙ぐましい努力をしてきた。そんなわけで、これから行く検査が楽しみだ。しかしなんだな、この「追い詰められて、しょうがないからやる性格」のお蔭で、何事においてもパーフェクトは望むべくもないがズタボロで面白い生活にはなる。有り難いこっちゃ！

合掌　住職

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。また土曜、日曜に行われる一日葬が増え、その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事　いずれもご自由にご参加下さい

聞法会　毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）2時間ほど

グリーフケアの集い「微妙音」　一月、三月、八月お休み
毎月5日午後2時より2時間ほど

白色白光の会（婦人会）毎月第2木曜午後1時
お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

仏像なぞり書き、塗り絵「仏像描くぞう」
毎月、第2月曜午後3時と月の最終日曜日午後3時から1時間　参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山　順正寺　東京都練馬区石神井町三・十七・四
お問い合わせ。午前9時から午後5時までは
03-3996-2064
それ以外の時間緊急の場合
080-5464-9136